ムシウタ　夢守れぬ剣士

天野 刹那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ムシウタ　夢守れぬ剣士

【Ｎコード】
Ｎ８６６５Ｑ

【作者名】
天野　刹那

【あらすじ】
とある虫憑き、天崎柳は立花利菜という名の少女と出会う。
どこまでも気高い理想を持つ相棒である彼女を補佐することになった彼は、虫憑きとしての在り方を、他の虫憑きから学び、利菜の隣で、しかし誰とも違う戦場で戦い始める。

第1話　出会い

「……ん？」

微かに聞こえた足音に、ベッドで寝ていた少年――天崎柳（あまさきやなぎ）は片目だけ開いた。

段々と近づいてくる気配に警戒しようとして、止める。

警戒しようがしまいが、自分に抵抗は許されていない。
両腕を拘束する手枷と、セイフティネックと呼ばれる首に巻かれた鎖のせいで、下手な動きを見せると同時に電流を流されるからだ。

「早くしろ。麻酔が切れるぞ」

男の声が聞こえた。
自分が入っている牢の隣で、二人分の足音が立ち止まる。

（新入りか……）

”虫”という存在がある。

思春期の少年少女に寄生し、寄生主—世間からは「虫憑き」と呼ばれる—の夢を喰う代わりに、力を分け与えるというものだ。

一方、政府は”虫”及び虫憑きの存在を無いことにしようと、捕獲・隔離を目的とした一つの組織を秘密裏に造り出した。

特別環境保全事務局。

現在柳は、通称、特環（とっかん）と呼ばれるそれの、隔離施設に投獄されていた。

ここに入れられたのは、二か月ほど前。

逃亡生活を続け、公園のベンチで寝ていたら、捕まっていた。情けない限りである。

それ以来、ずっとこの牢に入れられている。

まあ、毎日食事が出される分、むしろ生活は良くなったくらいなのだが、今は関係ない話である。

（……行ったか）

遠ざかる足音を聞きながら、溜息を吐く。

もう夜も遅いというのに、すっかり目が覚めてしまった。
眠くなるまでどう過ごそうかと考えて、更に目が覚める。

◆

「ここは……？」

意味の無い思考を巡らせ始めてから、しばらく後、隣の牢から声が聞こえた。

どうやら少女らしい。それだけ理解して、柳は声を出した。

「起きたか」

「誰！？」

少女の動揺が手に取るように分かった。
それも当然か、誰もいないのに突然声をかけられたら、大抵驚く。

「アンタの隣の牢屋にいる者(もん)だ。よろしく頼む」

「隣？　牢……？」

次に少女が発したのは、訝しむような声。

寝ている間に連れてこられたのなら、状況が理解できないのも当然だ。

そう考えた柳は、簡潔に説明する。

「ここは特環の隔離施設の一つで、捕獲した虫憑きを閉じ込めておく場所だ。俺とアンタは囚われの身。オーケー？」

「特、環……」

声に憎しみの色が混ざる。

なんとなくだが、少女の次の行動が予測できた。

「脱走するつもりなら、やめておけ」

隣の牢で、鎖が揺れる音が聞こえた。

やっぱりか、と柳は隣に聞こえないほどの溜息を吐いた。次はセイフティネックの説明を始める。

「まあ、壊せば問題は無いんだがな。ここを出たところで、完全に脱出するまでに欠落者にされるのがオチだし、止めとけよ？」

欠落者とは”虫”を殺されることで、自我も意思もない、人の言葉通りに動く、正に人形のような状態になってしまった者のことである。

”虫”が宿主の心と深く繋がっているために、殺された反動がそういった形で表れるのだ。

更に欠落者になってしまうと、そこから蘇生することができない。一生を、心を失くした人形のまま過ごさねばならないのだ。故に虫憑き達は、己の”虫”を殺されることを極端に恐れる。

隣の牢から、次は歯ぎしりする音が聞こえた。それほどまでに悔しいのだろう、特環に対する嫌悪感や憎しみが伝わってくる。

（つか、特環が好きな奴も珍しいか……）

組織の上層部は一般人であるために、当然のように虫憑きは差別されている。
弱い者は使い捨てのように前線に駆り出され、時には実験体にされるとさえ聞いたことがある。
特環に所属している者でさえ、憎しみや怨みを持つ者は少なくない。

それほどまでに、腐った組織なのだ。

「我慢しろ。ここから出たいのは皆同じだ。だからこそお前一人の失敗で、チャンスを潰されるわけにはいかない」

「チャンス？」

「ああ、逃げ出すためのチャンスだ。――皆でな」

もし、彼女が怒りのままに脱走しようとすれば、ただでさえ厳しい警備が更に強化されるだろう。柳としては、それだけは避けたかった。

「そのうち顔を合わせる機会があるはずだ。詳しくはその時に話す。それまでこの話は無しだ」

ようやく眠気が出てきた。欠伸をし、「おやすみ」とだけ言って、粗末なベッドに横になる。

「一つ、訊いてもいい……？」

寝ようとしている自分に遠慮しているのか、先ほどよりも小さい声だった。

「何を？」

「名前」

ああ、と思い出す。そういえば説明しただけで、自己紹介さえしていなかったか。

「天崎柳だ」

「ヤナギ、ね。覚えたわ。私の名前は――」

その日聞いた名前を、柳は一生忘れないだろう。

「立花利菜」

第1話　出会い（後書き）

もとはモバゲーで書いてたんですけどね。著作権云々で強制非公開にさせられました。というわけでこちらにお引っ越しです。基本、内容は自己満足小説です。書き方とか何かは、できる限り高い技術を目指しつつ、ぼちぼちやってこうと思いますのでよろしくお願いします。…というか長いね。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8665q/

ムシウタ　夢守れぬ剣士

2011年3月22日00時17分発行